

政府官邸、厚生労働省、都道府県・自治体、関係業界、喫煙者の方々へ

子どもに無煙環境を推進協議会

緊急事態宣言、およびまん延防止等重点措置の解除後には 飲食店等の店内を禁煙とし、喫煙専用室・加熱式たばこ専用喫煙室の 閉鎖を必須とし、喫煙者は喫煙をやめましょう

2021 年 6 月 20 日までの緊急事態宣言を解除し、一部でまん延防止等重点措置へ移行する動きがあり、飲食店の休業要請解除を業界も要望していて、進む方向にあるようです。

しかし新型コロナウイルス（COVID-19、以下新型コロナ）を抑え込む新生社会、また皆が健康を分かち合うコロナ後の社会とするためには、三密が避けられない公的な場所での喫煙（紙巻きタバコ、加熱式タバコ、電子タバコを含め）は、後記の理由により認められるべきではないので、以下の措置を要請いたします。

記

- [「新型インフルエンザ対策特別措置法」と関連の政令](#)を所管する国および自治体にあつては、喫煙可能店の禁煙化、喫煙室の閉鎖の必須（周知・要請、指導・勧奨）をお願いします。
- 飲食店や施設にあつては、禁煙と喫煙室の閉鎖をお願いします。
- 飲食店以外の施設・職場、また路上の指定喫煙所などでも、喫煙室・所の閉鎖をお願いします。
- 喫煙者にあつては、趣旨をご理解いただき、この機会に禁煙とされるようお勧めします。
- 非喫煙者の方々には、受動喫煙のある場所には近づかない、利用しないようお勧めします。

措置の理由

1. 喫煙により新型コロナにかかりやすくなります。
 - ・紙巻きタバコ喫煙で約 1.8 倍 ⇒ [図 1](#)
 - ・電子タバコ+タバコ喫煙で約 7 倍 ⇒ [図 2](#)
2. 喫煙により、肺を傷つけ、新型コロナが重症化します。⇒ [図 3](#)
 - ・喫煙は、がん、心臓病、脳卒中、慢性閉塞性肺疾患、糖尿病の原因で、かつ重症化要因です
3. 喫煙により新型コロナワクチンの効果が薄れます。⇒ [図 4](#)
4. 喫煙室・所は新型コロナの伝染所となります。
 - ・狭い喫煙室・所で、マスクを外し、吐出煙により、感染リスクが高まります。
5. 喫煙は個人の自由で済まされません。医療資源に大きな負荷をかけ、周りの人々の健康を損なうリスクからも負担をかけ、医療を圧迫していることから、社会の不安定化のリスク要因となってきました。

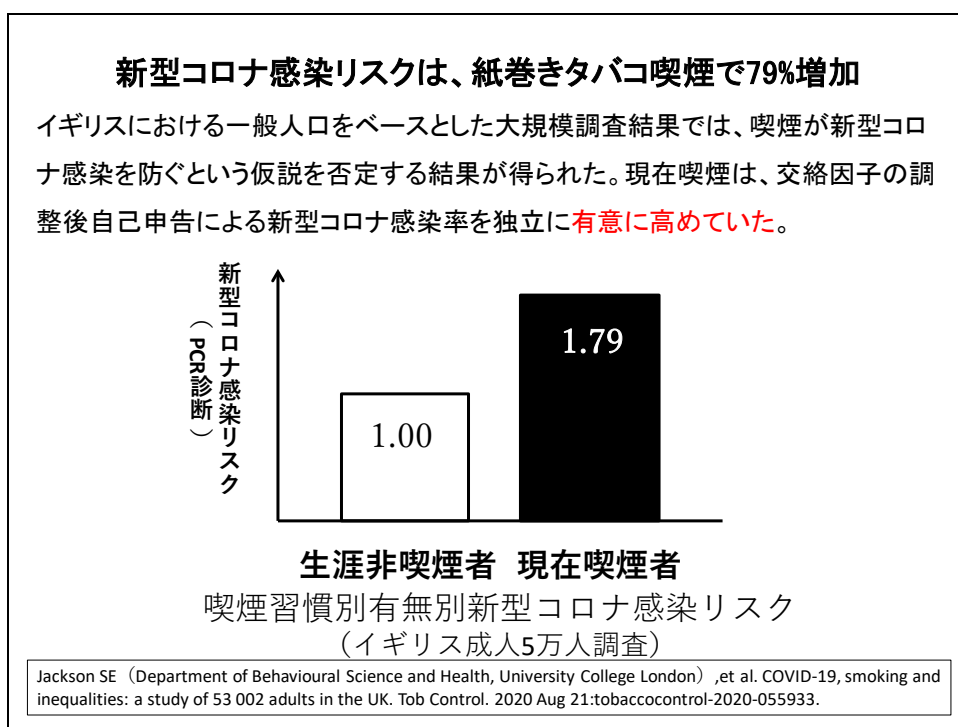
・ [日本では毎年1万5千人以上が受動喫煙で死亡しています](#)

6. 飲食店等で三密回避など諸対策がなされたとしても、喫煙可能店・喫煙専用室・指定たばこ専用喫煙室・喫煙目的店などで喫煙が出来ることになれば、喫煙者本人だけでなく、利用客への新型コロナウイルスの罹患のリスクは避けられず、コロナ対策の漏れを生ずるのは必至です。
7. アフターコロナの時代へ社会が様変わりするためにも、公共の場での喫煙可能スペースの閉鎖が不可欠です。
8. [喫煙者はタバコをやめましょう](#)。禁煙したい方の相談先はたくさんあります。
 - ① [健康保険が使える禁煙外来は全国に約1万7千ヶ所もあり](#)、遠隔診療施設も増えています。
 - ② [禁煙治療費の助成を行っている自治体](#)も増えています。

参考資料

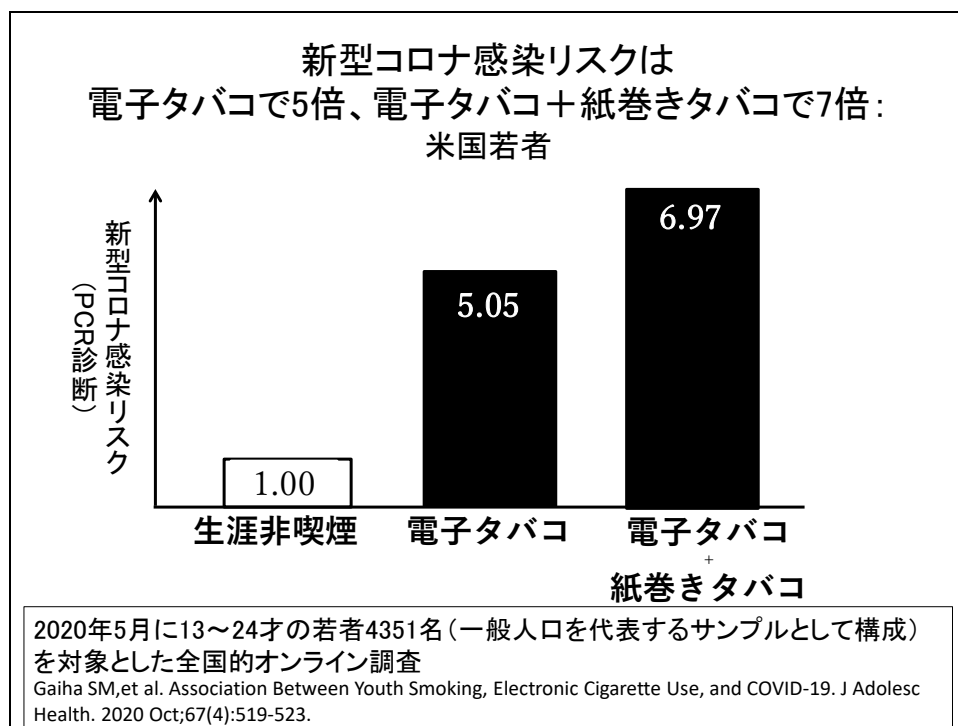
●本文のリンク図表

図1



[top へ戻る](#)

図2



[top へ戻る](#)

図 3

●喫煙がコロナ重症化リスク高める

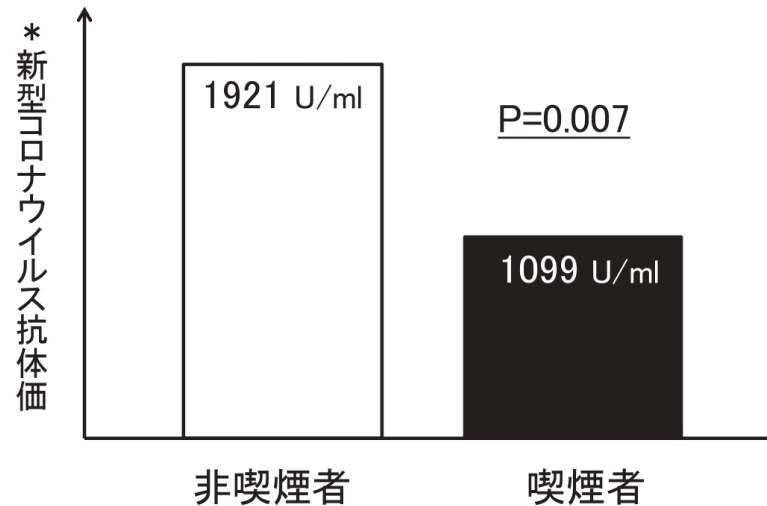
喫煙と新型コロナの重症化： システマティックレビューとメタアナリシス	
Zhang H (Department of Epidemiology and Health Statistics, School of Public Health, Anhui Medical University, Hefei, 230032, Anhui, P.R.China.), et al. Association of smoking history with severe and critical outcome in COVID-19 patients: A systemic review and meta-analysis. Eur J Integr Med. 2021 Feb 18;43:101313.	
新型コロナ感染患者における	オッズ比 (喫煙ありvsなし)
重症化・重篤化	1.55*
ICU治療移行	1.73*
死亡	1.58*
重篤エンドポイント到達 (ICU, ARDS, 人工呼吸器, 死亡)	1.61*

* 有意差あり

[top へ戻る](#)

図 4

新型コロナワクチン接種による抗体増加： 喫煙者は非喫煙者の半分 (ヘルスケアワーカー)



(* ファイザー・ビオンテックワクチン2回接種後のスパイク蛋白に対する抗体)

Watanabe M, et al. Central obesity, smoking habit, and hypertension are associated with lower antibody titres in response to COVID-19 mRNA vaccine. Diabetes Metab Res Rev. 2021

[top へ戻る](#)

●厚労省基本的対処方針 [kihon_h_20210610.pdf \(corona.go.jp\)](#) 19 ページ

新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針（令和3年6月10日変更）

二 新型コロナウイルス感染症の対処に関する全般的な方針 ① これまでの感染拡大期の経験や国内外の様々な研究等の知見を踏まえ、より効果的な感染防止策等を講じていく。② 緊急事態措置区域においては、感染拡大の主な起点となっている飲食の場面に対する対策の強化を図るとともに、B.1.1.7 系統の変異株（アルファ株）に置き換わったと推定されること等を踏まえ、人と人との接触機会を減らすために、人の流れを抑制するための取組を行う、積極的な検査戦略を実施するなど、徹底した感染防止策に取り組む。③ 重点措置区域においては、都道府県が定める期間、区域等において、飲食を伴うものなど感染リスクが高く感染拡大の主な起点となっている場面等に効果的な対策を徹底する。④ その他の感染の再拡大が認められる地域では、政府と都道府県が密接に連携しながら、重点的・集中的な PCR 検査や営業時間短縮要請等を実施するとともに、まん延防止等重点措置を機動的に活用するなど、速やかに効果的で強い感染対策等を講じる。⑤ 感染拡大を予防する「新しい生活様式」の定着や「[感染リスクが高まる「5つの場面」](#)」を回避すること等を促すとともに、事業者及び関係団体に対して、業種別ガイドライン等の実践と科学的知見等に基づく進化を促していく。

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



・ 職場においては、感染防止のための取組（手洗いや手指消毒、咳エチケット、職員同士の距離確保、事業場の換気励行、複数人が触る箇所の消毒、発熱等の症状が見られる従業員の出勤自粛、出張による従業員の移動を減らすためのテレビ会議の活用、昼休みの時差取得、社員寮等の集団生活の場での対策等）や「三つの密」や「感染リスクが高まる「5つの場面」」等を避ける行動を徹底するよう、実践例も活用しながら促すこと。特に職場での「居場所の切り替わり」（休憩室、更衣室、喫煙室等）に注意するよう周知すること。さらに、職場や店舗等に関して、業種別ガイドライン等を実践するよう働きかけること。

・ 事業者に対して、職場における、感染防止のための取組（手洗い や手指消毒、咳エチケット、職員同士の距離確保、事業場の換気励行、複数人が触る箇所の消毒、発熱等の症状が見られる従業員の出勤自粛、出張による従業員の移動を減らすためのテレビ会議の活用、昼休みの時差取得、社員寮等の集団生活の場での対策等）や「三つの密」や「感染リスクが高まる「5つの場面」」等を避ける行動を徹底するよう、実践例も活用しながら促すこと。特に職場での「居場所の切り替わり」（休憩室、更衣室、喫煙室等）に注意するよう周知すること。

●新しい生活様式

[新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の実践例を公表しました | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](https://www.mhlw.go.jp)

「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- ☐ 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
 - ☐ 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
 - ☐ 外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏場は、熱中症に十分注意する。
 - ☐ 家に帰ったらまず手や顔を洗う。
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
 - ☐ 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。
- ※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- ☐ 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- ☐ 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- ☐ 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- ☐ まめに手洗い・手指消毒 ☐ 咳エチケットの徹底
- ☐ こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に） ☐ 身体的距離の確保
- ☐ 「3密」の回避（密集、密接、密閉）
- ☐ 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- ☐ 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



密集回避



密接回避



密閉回避



換気



咳エチケット



手洗い

●PowerPoint プレゼンテーション (mhlw.go.jp)

新型コロナウイルスの集団感染を防ぐために

感染拡大を防ぐために



国内では、散発的に小規模に複数の患者が発生している例がみられます。この段階では、濃厚接触者を中心に感染経路を追跡調査することにより感染拡大を防ぎます。

今重要なのは、今後の国内での感染の拡大を最小限に抑えるため、

小規模な患者の集団（クラスター）が次の集団を生み出すことの防止です。

<感染経路の特徴>

※「小規模患者クラスター」とは

感染経路が追えている数人から数十人規模の患者の集団のことです。

- ◆ これまでに国内で感染が明らかになった方のうちの8割の方は、他の人に感染させていません。
- ◆ 一方、**スポーツジム、屋形船、ビュッフェスタイルの会食、雀荘、スキーのゲストハウス、密閉された仮設テント**などでは、**一人の感染者が複数に感染させた事例が報告されています。**

このように、集団感染の共通点は、特に、「**換気が悪く**」、「**人が密に集まって過ごすような空間**」、「**不特定多数の人が接触するおそれが高い場所**」です。

国民の皆さまへのお願い

- ◇ **換気が悪く、人が密に集まって過ごすような空間に集団で集まることを避けてください。**
- ◇ イベントを開催する方々は、風通しの悪い空間や、人が至近距離で会話する環境は、感染リスクが高いことから、その規模の大小にかかわらず、その開催の必要性について検討するとともに、開催する場合には、**風通しの悪い空間をなるべく作らない**など、イベントの実施方法を工夫してください。

これらの知見は、今後の疫学情報や研究により変わる可能性があります。現時点で最善と考えられる注意事項をまとめたものです。

厚生労働省では、クラスターが発生した自治体と連携して、クラスター発生の早期探知、専門家チームの派遣、データの収集分析と対応策の検討などを行っていくため、国内の感染症の専門家で構成される「クラスター対策班」を設置し、各地の支援に取り組んでいます。

●呼吸器学会声明

[新型コロナウイルス感染症（COVID-19） | 新型コロナウイルス感染症とタバコについて | 一般社団法人日本呼吸器学会 \(jrs.or.jp\)](#)



日本呼吸器学会

2020年4月20日 日本呼吸器学会

1. 喫煙は新型コロナウイルス肺炎重症化の最大のリスクです
2. 三密「密閉」「密集」「密接」の喫煙室は濃厚接触の場です
3. 家にいても家族・近隣への受動喫煙を増やさないでください
4. あなた自身と家族、同僚を守るため、この機会に禁煙を！

1. 喫煙は新型コロナウイルス肺炎重症化の最大のリスクです

中国・武漢を中心にCOVID-19患者1,099名の臨床データを分析した研究では、喫煙者は人工呼吸器が装着される、あるいは死亡する危険性が非喫煙者の3倍以上になることが明らかになりました1)。また年齢や基礎疾患（糖尿病、高血圧など）と比べても、重症化の最大のリスクであることも報告されています2)。世界保健機関（WHO）もCOVID-19対策として「禁煙すること」を強く推奨する声明を出しています3)。

感染予防として手洗い・うがいなどが重要なように、ウイルスの付着した手で口元に触れることは感染のリスクになります。タバコを吸うと何度も口元に汚染された可能性のある手を近づけることになるため、感染リスクを高めることになります。

2. 三密「密閉」「密集」「密接」の喫煙室は濃厚接触の場です

密閉された狭い空間で大勢が喫煙する喫煙室は三密「密閉」「密集」「密接」の典型です。マスクをせずに2メートル以内の距離で感染者と数分間過ごすことは、濃厚接触に当たります4)。実際に喫煙室での感染が疑われる事例も報道されています5)。三密「密閉」「密集」「密接」の場である喫煙室の使用は感染の危険と隣り合わせであり、すでに東京都港区は屋外の喫煙コーナー28カ所を閉鎖しました。ウイルスの蔓延を防止するため、喫煙室・喫煙コーナーの使用はやめ、閉鎖しましょう。

3. 家にも家族・近隣への受動喫煙を増やさないください

緊急事態宣言発出後、全国で在宅勤務や外出の自粛が求められています。自宅で家族と過ごす時間が増えますが、その結果受動喫煙が増えてしまっは大切な家族の健康を害することになります。ベランダや台所の換気扇の下で喫煙しても家族の受動喫煙はなくなりませんし、隣家への受動喫煙によるトラブルも発生しています。受動喫煙の有害性については、当学会発行の [「肺の寿命の延ばしかた」](#)6)をご覧ください。家にも大切な家族やご近所にタバコの煙を吸わせないでください。周囲の受動喫煙をなくす唯一の方法はあなたが禁煙することです。